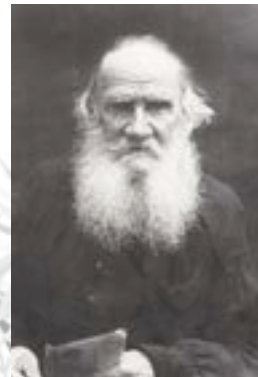




他人の不幸の上に  
自分の幸福を築いてはならない。  
他人の幸福の中にこそ  
自分の幸福もある。

レフ・トルストイ（ロシア／一八二八〜一九一〇）



19世紀を代表するロシア文豪・思想家は、裕福な家庭に生まれたものの若くして両親や親族を次々亡くした。クリミア戦争に従事したのち農奴解放や教育問題に取り組み、結婚後は「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」など傑作作品で世界的名声を得るものの、人生の無意味さに悩み苦しんだ。

やがて宗教や民衆の素朴な生き方にひかれ、国家と私有財産、搾取を否定する無政府・非暴力主義の活動を広めていく（トルストイ運動）。墮落した政府・社会・

宗教への痛烈な批判の書「復活」では、ロシア正教会から破門されている。ロマン・ロラン、ガンディー、森鷗外、宮沢賢治など世界各国の文学、宗教、社会主義に大きな影響を与えた。

上記の格言は、今年8月6日、広島市平和記念式典での平和宣言に引用された。ロシアの核兵器威嚇に対する警鐘だ。

もとより、人の不幸は蜜の味という浅ましさは誰にもある。他を区別しつつなかりを顧みない。しかし他者に起こることは自分にも起こりうる、と観じるのが仏法だ。

＊経典はお釈迦様が説いた教えや物語、さまざまなエピソードが綴られています。いささか突飛で誇大な描写もそのまま受け取るのではなく、先師方が長年解釈を積み重ね、体系化してきました。昔の人たちが何をどう伝えたかったのか、妄想をめぐらしてみませんか？

## 孟蘭盆経 （餓鬼道）

## 妄想？諸説あり！

■**仏説孟蘭盆経（うらぼんぎょう）**：釈迦十大弟子の一人である目連（もくれん）尊者が餓鬼道に堕ちた亡母を救うため、釈迦の助言で7月15日に衆僧供養を行なったところ大変喜ばれ、母やその他が餓鬼の身を脱したという。盆踊りの由来とか、西域か中国で成立した偽経ともされる。「孟蘭盆」はサンスクリット語ウランバナ ullambana = 倒懸（とうけん、逆さ吊り）の音訳。お盆の時期の仏事として、他宗では施餓鬼会（餓鬼に布施する）が営まれるが、浄土真宗では歓喜会（かんぎえ）と呼ぶ。

-----  
一目連さんは、さぞびっくりして悲しんだのでは？

彼は神通力（超能力）第一と称されたが、もしそんな霊能力が普通の人間に備わったら、それで身を滅ぼしかねないな。傲慢になるか奉られちゃってね。—餓鬼道に堕ちたのは、ある時お母さんが自分の子の目連さんだけに飲み物を与えて、他の子には出し渋ったからだとか？

お釈迦さんから見たら、なぜ他の子にも同じように与えられなかったのか。親の愛情と言えどもそれまでだが、愛情も肥大して執着していくと、我が子さえ幸せなら親は満足、という狭い世界に閉じこもりがち。それがひいては子を縛ったりもしてしまう。

—そのお釈迦さんは、なぜ多くの修行僧を飲食物で供養しなさいと助言したんでしょう？

そこが二つ目のポイントだ。インドでは雨季の間は一定のところに留まって修行をした。その明ける7月15日を「自恣（じし）の日」として修行を終えた僧たちが集まって反省会をする日とされた。たぶん、目連さんは半ばお母さんの罪滅ぼしのごとく、労力を惜しまず修行者たちをおもてなししたと思う。

そして、集まった修行僧たちも、それぞれの成果や自己採点を披露し分かち合ったのではないだろうか。曰く「私はこういう修行をしたが、どうしてもここが壁となった」「自分はその壁はこういうふうにしたら越えられたよ」とか「私はこれこれの瞑想で、自分のこんなところに気づいた。そしたら他の人も少し許せるようになった」「それは素晴らしい！それはぜひワシにも教えてほしい」などなど。

—自分一人で悩んだりせず、誰かに話を聞いて分かち合ってくれることが大切なんだ。

最後に、亡き人の供養って言いつつ、お墓参りだけは賑わうけど本当の供養とは何だろう？この物語では七世代前の先祖も救われるとある。自分の「我」だけを張って、他者への思いやりが欠如したままでは、代々のご先祖も命つないできた甲斐もなかるよ。与えられたこの命、自分自身でしっかり仏道に向かって定めないとね。



## 葬儀前後のスケジュールとポイント（概要）

コロナ禍以降、葬送儀礼も小規模化、多様化が進んだ（丹南地域は都会ほどではないようだが）。形式は変わっても基本的な段取りは押さえておきたい。但し家庭の事情や親族の都合、地域の慣習次第でさまざまなケースもある。儀礼の肝要は厳粛さ。下記は一例として参考に。

### ■死去当日 ＊夜間（全体のおよそ半数以上）、病院として（八割以上）

- ・死亡診断、業者連絡、遺体清拭、搬送帰宅、仏間準備、簡単な打合せ

### ■翌日 ＊朝～午前中、随時各種打合せ、来客対応

- ・寺院、親族など第一報→日程協議、生前法名など確認
- ・死亡届&火葬許可証役所提出（火葬仮予約）：業者代行→コピー数通
- ・枕経、日程ほか打合せ：僧侶→寺院に相談の上日程確定、動きや布施包みなど確認
- ・棺、荘厳壇、帳場など確認：業者
- ・遺影、会葬令状、商品券など確認：業者→商品券と令状は多めに
- ・新聞告知&案内先協議→親族、在所、仕事関係悩みどころ、但し大勢の良さもある
- ・弔問客対応、食事段取りなど→可能なら家族親族近隣の方々に役割分担
- ＊夕方 会葬令状校正、新聞告知締切：業者

### ■三日目 ＊午前中打合せ、午後～納棺、通夜へ

- ・寺院へ白木位牌を受け取りに行く→納棺尊号（封書）はご遺体の胸の上に置く
- ・引き出物、供物、食事、布施包みなど打合せ：業者→包みは現在目録形式が主
- ・納棺：業者→納棺尊号は懐に入れる（一緒に火葬）
- ・会場へ移動～帳場開設、弔問客対応→お身内だけなら不要の場合も
- ・通夜→寺院送迎不要
- ・会食（または弁当持ち帰り）
- ・弔電、焼香順、包み準備、火葬場へバス・配車など確認：業者→随時焼香もあり

### ■四日目 ＊午前中葬儀、午後収骨&納骨

- ・葬儀式→僧侶送迎要、30分前に会場着 立礼・挨拶は不要の場合も
- ・出棺、火葬場へ→福井聖苑は僧侶一名同行（終了後鯖江へ）、自宅など経由もあり
- ・昼食、香典受け取り（帳面も）、持ち帰り用返礼品準備：業者→親族一旦解散も
- ・収骨→火葬場にて約30分ほど、骨箱は原則三つ（家墓、菩提寺、京都・大谷本廟）
- ・寺院納骨→人数と時間を事前に連絡、初七日お参りは死亡日の6日後が原則

### ■以降一週間ほど

- ・弔問客対応→新聞告知しても数日間は訪問あり（新聞事後告知はなおさら）
- ・挨拶回り→当日渡せなかった引き出物など
- ・香典返礼段取り→忌明け法要時（または郵送にて）、およそ6割返しが一般的
- ・役所、年金、保険、金融機関など→縦書きの原戸籍は2通以上必要、年金事務所要予約
- ・七日参り→七週ごとにお勤め（一名）、できれば若い方が在宅、日時は調整可能

NHK 福井 TV にて、去る 5 月 19 日と 7 月 1 日に「テンプル食堂よしざき」が紹介されました。これは通称「子ども食堂」と呼ばれる取り組みで、ボランティアが本願寺吉崎別院で行なっているものです。

子ども食堂とは、子どもに無料または低額で食事を提供する食堂です。その数は今や全国で 6,000 を超えています（この五年間で 20 倍に）。

ここはコロナ禍の 2020 年 6 月に始まり、2022 年 6 月 26 日に第 25 回を数えました。当初 40 名ほどだった参加者も約 400 名となり、全国的にも例を見ない規模となっています。

貧困家庭では子供に十分な食事を与えられないという問題に加え、親が働きに出ているので子供が一人で食事を取る「孤食」といった問題も指摘されています。孤食は子供の精神面の発達に影響があると言われています。一般的な子ども食堂は、こういったご家庭のお子さん限定して食事を提供しています。

「テンプル食堂よしざき」は、発起人の八幡真衣さん（本願寺派僧侶・小松市）がリーダーとなって運営しており、私も立ち上げ段階から関わっております。

会場となっているあわら市吉崎地区は今や人口約 200 人の小さい集落で、小さなお子さんもほぼいないことから、年配の方をはじめ地域のみなさんにきてもらえる食堂にしたいと、「テンプル食堂」という名前に

しました。結果的にこれが貧困層のご家庭支援に大きく役に立つこととなりました。

貧困家庭には、貧困層支援をうたう食堂や支援の場所に足を運びたくないと思う方もいらっしゃいます。貧困層であることを知られたり、かわいそうという目で見られたりしたくないのです。



誰でも来られるこのような場であれば、素性を明かすことなく足を運ぶことができますし、実際にそういう方が増えています。また、毎月顔を合わせることで各家庭の経済状況や、様々な事情を食堂スタッフが把握できるようになりました。それに従いやるべきことも見え、活動がどんどんと広がってきております。

現在は食堂運営に加え、食材配布やパン教室、体操教室などもはじめています。貧困家庭が支出を切り詰める際、真っ先にお子さんの習い事が対象になります。各種教室は格安で運営し、コロナ禍で習い事を諦めざるを得なかったお子さんたちの受け皿となっています。

また、親子の居場所づくりのために古民家も改修中です。最近の資材高騰の影響で苦難を強いられていますが、8 月にはオープンできる予定です。活動の様子は Facebook 等で広報しています。ぜひご覧ください。ご支援も受け付けております。  
<https://www.facebook.com/temple.shokudo.yoshizaki/>

■摘発を退けた「政治圧力」／「全国靈感商法対策弁護士連絡会」 渡辺博弁護士  
7.22 日刊ゲンダイから抜粋

2009年、靈感商法の会社「新世」社長と従業員らに懲役刑が下され、靈感商法が初めて犯罪認定され世間の耳目を集めた。これでようやく捜査の手が統一教会そのものに及ぶかと思われたが、それ以降も警察がメスを入れることはなかった。渡辺弁護士はその背景をこう明かす。

「後に統一教会の機関誌で、新世事件の責任者がく政治家との絆が弱かったから、警察の摘発を受けた。今後は政治家と一生懸命つながっていかないといけない」と語ったことが彼らの反省点でした。我々が国会議員に『統一教会の応援をするのはやめてください』と呼び掛けている理由もそこにある」

昨年までの35年間で消費生活センターなどが受けた統一教会に関する相談は3万4537件、被害総額は約1237億円に上る。弁護士によると「氷山の一角」だという。

ジャーナリスト・有田芳生氏は95年、警視庁公安部の幹部から「統一教会の摘発を視野に入れている。相当な情報源ができた。金の関係から入る」と打ち明けられた。しかし摘発はなかった。

「10年後、元幹部に『今だから言えることを教えて欲しい。なんでダメだったのか』と聞いたら、答えは『政治の力だった』の一言でした。警察は個人名を含めた全国の捜査リスト『統一教会重点対象名簿』を作り、実際に動いていたのですが」

「統一教会のような伝道、経済活動、合同結婚式の3点セットがすべて違法となる集団は世界中どこにもありません。我々はすべて民事事件で解決してきました。普通はどここの国でも、これだけ問題を起こせば途中で刑事事件になります。日本だけが放置された」

■国葬はむしろ「民主主義の精神」と相反する制度／宮間純一（中央大学文学部教授）  
7.19 PRESIDENT Online から抜粋

国葬とは、国家が主催し、国費をもって実施する葬儀のことをいう。

国葬の初例は、1883年に行われた岩倉具視の葬儀だが、制度こそなかったものの1878年の大久保利通の葬儀は国葬に準ずる規模で催された。

葬儀を主導したのは、大久保の後継者・伊藤博文と、同じ薩摩藩出身の西郷従道らである。彼らが心配したのは、大久保が不平士族の手にかかって落命したことで、反政府活動が活発化することだった。

そこで伊藤たちは、天皇が「功臣」の死を哀しんでいる様子を、大規模な葬儀という形で国内外に見せつけようとした。葬儀を通じて、政府に逆らう者は天皇の意思に逆らう者であることを明確にした。大久保の「功績」を国家儀礼で揺るぎないものとし、政権を強化しようとして政治利用したのである。

私には、伊藤たちの思惑が岸田首相の発言と重なった。表面上は、民主主義を守ると言っているが、多数残されている安倍元首相の疑惑を覆い隠し、安倍政権の評価を固めて自民党政権を守ろうとしているのではないかと。

天皇から国葬を賜った「功臣」に対する評価は絶対的なものとなる。個人の意志にかかわらず、国葬を通じて「功臣」を追悼することが強制され、国民は一つの方向を向いて「功臣」に敬礼しなければならない。本質的に国葬は、国民を一つにまとめようとして実施される。

敗戦後、国葬令は失効し、現在に至るまで国葬を行うための直接の根拠となる法令は作られていない。

安倍元首相の国葬をめぐることは、安倍政権への疑惑や国費の使用、政教分離、決定

までの手続きなどが主な論点となっている。それらも重要な問題だが、私の頭をよぎったのは時代を逆行しているかのような恐ろしさであった。国家が特定の人間の人生を特別視し、批判意見を抑圧しうる制度など、民主主義のもとで成立しようはずがない。

## ■自民党は旧統一教会との関係を切れない ／窪田順生（ノンフィクションライター）

7.21 PRESIDENT Online から抜粋

ブッシュやトランプ政権など、米国歴代の共和党系大統領はみな旧統一教会シンパとして知られる。政治家がキリスト教系団体から支持を受けることに抵抗はない国だし、反共主義も共和党政策に近い。文鮮明と岸信介の蜜月関係を、福田赳夫が受け継いだことからわかるように、旧統一教会とのパイプは清和会を中心とした日本の保守系政治家が、米保守系政治家への「忖度」をし続けてきたことの結果であり、日本の「対米従属」という構造的な問題なのだ。

いま本当に必要な議論は、親権が強い日本の法制度に手をつけ、2世信者など「宗教被害者」の救済方法、保護活動だ。

◆元首相の落命には哀悼を捧げたい。同時に坊主の一人として、これまでにアップされた情報をもとに少し考えてみよう。

まずは容疑者の家庭環境だ。30年ほども強い恨みを抱き続け、自らの死も覚悟した

心中を思うと痛ましい。殺害行為は決して容認できないが、家族が壊れ長年孤独に置かれた人生、他人事で片付けてはいけない。

次に国葬。葬儀式はすでに済んでいるのでこれは「偲ぶ会」「お別れ会」の間違いだ。悼む気持ちがある人が行るのがお弔いであるし、そもそも国論を二分する状況自体、故人が国葬に値するのかが疑問である。

さらに、宗教教団の形をとった政治団体と安倍政権との癒着。日本会議然り、家父長的家族観など安倍氏の理念と親和性が高い。与党政治家がもっとこのカルト団体に注意し、距離を置いていたらこの事件は起こらなかったかもしれない。被害に苦しんできた側にとって、（摘発どころでなく）元首相のビデオメッセージのような教祖教会礼賛は絶望的に映ったのではないか。その挙句自ら凶弾に倒れたとは何の因果だろう。

そして信仰と洗脳。これも紙一重の差だ。「貧・病・争」は詐欺・勧誘手法として要注意だが、娑婆世界の不条理さ、心がくたびれたときに何か救いや拠り所を求めるのは伝統宗教（の布教）も同じだし、マインドコントロールの手法は、それこそ消費CM、営業、報道などあふれている。もしかしたら経済成長とか科学技術万能といった「常識」すら、仏様から見たら疑わしい価値観だ。

政治や宗教の歴史、報道について、タブーなく学び考える機会をぜひ学校教育に取り入れ、宗教側からも発信すべきと思う。

暑中お見舞い  
申し上げます

▼八月大雨、被災された皆様には、とてもお盆どころではないかと復旧作業の皆様ともども案じる次第です。

▼遠縁の先輩僧侶が、若い時の大事な方が病気をきっかけに旧統一教会にのめり込み、人が変わってしまったという。県内知人でも親鸞会や念仏宗での悩みを聞くことがあった。

現在、遠縁の方は脱カルト支援活動のネットワークも参加している。もし周囲の方でもお困りごとやお悩みがあったら、どうぞご連絡ご相談いただければと思います。住職自身は非力ですが、専門家におつなぎします。(S)

住職・林 暁 携帯 090-9765-1343 (メール、FB メッセンジャーも可)